

全国大会 in 東北・ふくしま実行委員長大和田新さんにきく



れわれ医者でも薬剤師でもない、その薬が本当にその薬なのかどうかということもありますよね。かたや小学校2年生の女の子、かたやあげてもいいですよというのが大人ですからね。その薬が本当に彼女に与えて副作用で死んだりしないだろうか。あとは、僕が持っているきますすといいた人が、持って行ったときに「はい、交通費10万」と言わないかどうか等々、いろんなことをみんな考えましたが、それも、「この未曾有の災害のときにそん

なことする人は、われわれの放送を聞いている人の中にはいない」という判断に立った時、動きは早かったですよ。現場で判断できましたから。いちいちこれどうしますかなんて、社長にお伺い立てないで。命にかかわるものはどんなやれ、最終的な責任は社長がとってくれるといってくれましたから。

行政の責任

次は透析です。透析患者さんから透析しないと死んでしまう。市役所に電話して、われわれ震災の次の日から2時間から3時間並んで、水をもらいにいったんですから。給水車に2時間並ぶんですよ。雪が降っているのに。その時にどれだけの放射線が降っていたか。そういう状況のなかで、透析患者さんからとにかく命を救ってくれ、透析しないと死んじゃうという声……。ところが電気もつかない、水もない状況のなかで、聞いてみたら、透析は大量の水が必要なんです。機械を洗うのに。

行政に連絡をして、「明日市民

のために配る水をこの病院に持って行ってくれないか。今お宅の市の市民の方からこういう依頼が来ているんだ。なんとかしないと死んでしまいます」と話をしました。

そのとき行政の人がおっしゃったのは、「これは飲み水です。飲み水を透析の機械を洗う水にもっていけない」とのことでした。

わたしは「ふざけるな。部長出世！」と言ってね、「お前のところの市民だぞ!!」とやるんですが、「これはダメです。これは飲み水ですから。決まっていますから」の一点張り。「なに決めてんだ!」ってことなんですけれども……。

でも先方も人なんです。何人か電話でつないでいるときにわかりました。わたしが「責任をもつてこの件に関してあたる」と名乗ることになりました。それでその行政の人からちゃんと病院に電話をしてもらい、通常だったら4時間から5時間やる透析が、1時間半。それも30人までと制限されましたが、無事に切り抜けることができました。